



だたら

第 19 号
(2022年7月発行)

島根学習センター内
島根同窓会

発行者 竹下靖彦
http://oushimaned.main.jp
E-mail: info@oushimaned.main.jp



(第10回通常総会ご出席の皆さん)

第10回通常総会を開催しました

新型コロナウイルス感染症は、新規感染者数が終息に向かうどころか、大都市から地方都市へと拡大・蔓延し、国内で940万人を超過するとともに、県内でも累計2万人(7月6日現在)を超え、1日で過去最高の750人を超えるなど感染拡大の「第7波」が大いに危惧され、さらには次から次へと厄介なオミクロン株の亜種のBA・1やBA・2、BA・5へと爆発的な拡大を来たしています。

このような状況の中4月17日(日)14:00から、学習センターの配慮により3密を避けながら、参加者の数の制限によりご案内の通り開催しました。

今通常総会には、委任状を含めて60名(83%)で、当日は出席者9名が参加しての開催となりました。総会の任務は①2021年度事業報告、②2021年度決算・監査報告、③2022年度事業計画、④2022年度予算案でした。総会には来賓として田坂所長に代わって小仲事務長が出席され、これまでのセンター行事に絶大なる協力に対し感謝と、引き続き更なる支援を要請されました。

通常総会は更なる飛躍を果たすため、会員の要求に応える活動を確認し終了しました。

平和主義を希求する

会長 竹下靖彦



会員の皆様にはお変わりもなくお過ごしのことと拝察いたします。

コロナ禍に苦しみ、日々行動が制限されて耐える日常を過ごすこと2年半にもなりました。この間に政府の無策とも言えるコロナ対策は医療ひっ迫と保健所の統合によりその機能が低下し、職員の奮闘にもかかわらず、医療行為を受けられずに多くの尊い命が犠牲となり、回復後に副作用に苦しむ方も多くなっています。世界に冠たる医療保障制度が小泉政権以後も度重なる削減策によって脆くも崩壊に直面しています。

国民の暮らしが軍拡か

加えてロシアによる覇権主義によるウクライナ侵略が2月から行われ、主権と命を脅かす惨状を日々映像から視聴する度に憤りを募りながら生活しています。ところが侵略に伴う弊害が平和だけでなく、石油、穀物、流通にもおよび円安・物価高となり、日本が海外に依拠する経済のもろさを直撃しています。

一方物価高騰の背景は、果たしてロシア侵略だけでしょうか。円安の背景には安倍政権時代による「異次元の金融緩和」によって、日米の金利差が拡大し、金利の低い円が売られて円高が進み、円安が輸入物価を上昇させ、国内物価を全般的に押し上げてきた。

このように「異常円安」をもたらした背景には「アベノミクス」による日銀が国債を大量に買い取って、金融市場にお金を供給したことで投機が活発となり株価が上昇し、得をしたのは大企業と富裕層です。国民は物価高に苦しんでいるにもかかわらず、黒田日限総裁は物価高騰について「家計の値上げ許容度の改善につながっている可能性がある」と発言しているように、根底にあるのは、アベノミクスに固執す

る反国民性であろうか。

高齢者を苦しめる政治はごめん

私事であるが、私は現役時代医療関係職場にいたことと、75歳以上の後期高齢者のため社会保障改悪に人一倍関心がある。高齢者は幾つもの病気を抱え、転倒などの怪我のリスクが高く、またも4月、5月分以降から、高物価なのに年金の切り下げ(0.4%)の中、10月から75歳以上の後期高齢者医療費窓口負担が、所得が一定額を超える370万人が影響を受ける2割負担増は生存権の侵害以外何ものでもない。

さらに紹介状なしで200床の大病院を直接受診した際の定額負担の引き上げが5,000円から7,000円に上げられるとのこと。

会員の減少は魅力がないのか

第10回通常総会は2013年(H25)3月31日全国49番目として、島根同窓会を創立してから10周年が経過しました。

この間、同窓会の活動を発展させるとともに、母校である放送大学の各種事業に積極的に支援を行って、創立当初活動目的とした「会員相互の交流と親睦を図り、島根学習センターの発展に寄与する」ことを中心活動として位置づけてきたことが、ここにきてやっと定着するとともに、組織としての基盤を強化することができ、同窓会の存在を内外に示すことができました。

さらにもう一つの柱である「社会貢献に取り組む」活動は、「植林活動」「行政から消費者問題への委託事業」「市民公開講座開催の取り組み」「消費者問題に取り組む市民団体」や「文化活動団体」との共催や後援団体としての活動などに取り組み、同窓会員・学生・市民から少しずつですが注目を浴びる組織へ発展しつつある。

しかしながら、一昨年以降引き続くコロナ禍にあつて、三密を避けるための自粛を余儀なくされ、総会にて決定された事業計画が十分に取ることができなかつたことは、誠に遺憾で断腸の思いが続く日々です。

第10回通常総会を終えて

会長 竹下靖彦



コロナ禍の中第10回通常総会は2022年4月17日(日)14:00から、島根学習センター3階第1講義室にて、委任状を含め60人(83%),当日は出席9人にて開催した。

司会は森脇理事による開会の挨拶に続き、竹下会長による挨拶は「2013年3月に同窓会を創立し、ここに9年が経過し、本日コロナ禍にあっても第10回通常総会を開催できたことは、会員、学習センター、役員のご支援によるもので、感謝を申し上げたい。2021年はコロナ禍のため活動が大きく制約され、当初の事業計画が一部しか取り組めず残念の極みです」と述べた。

来賓の田坂所長に代わり小仲事務長より「コロナ禍にあっても学位記授与式、卒業を祝う会、入学者のつどい、セミナー、特に島根学習センター創立25周年記念事業も開催できた。日頃より同窓会によるご協力に感謝です。今後も引き続きご支援をお願いします」と挨拶された。

議長に石川副会長を選任し、議長より総会議事録署名人に議長と竹下さんを指定した後、予定された式次第に従い総会議事に移り、①2021年度事業報告、②2021年度決算・監査報告、③2022年度事業計画、④2022年度予算、⑤同窓会活性化への意見交換会続き、全ての議案を賛成多数にて可決承認した。

特に総会事業計画の具体化について、今後の飛躍を果たすため、活動をきめ細かに推進する。そのためには、①地域別会員・学生の懇談会の開催、②会報“たたら”の編集充実、③ホームページと情報伝達の充実、④本格的に地域貢献活

動の取り組み、⑤放送大学の宣伝、⑥執行体制の強化を打ち出し、創立11年の活動を成功させるために一丸となることを全会一致で可決承認した。詳しくは同封しました「総会議事録」をご参照ください。

2021年度2学期

学位記授与式が行われました



2021年度第2学期学位記授与式が、3月27日(日)午前10時40分から、三密を避けて広い会場の松江市民活動センター(STIK)5階交流ホールで開催されました。

例年第2学期は1学期に比べて卒業者が多数ですが、今学期は2010年度の8名に次ぐ11名と少なく、大学院修了者も該当者はなく、本授与式には4名が出席されました。最初に田坂島根学習センター所長体調不良で欠席のため、小仲事務長より学位記が卒業生修了生おひとりお一人に手渡されました。



続いて田坂島根学習センター所長からの祝辞を小仲事務長が代読されました。「新型コロナウイルスが世界中に拡大し、収束すら見通せないことに加えて、ロシアのウクライナ侵攻による日常生活の破壊など、自然界においても先の見通せない事態です。今私たちには必要な知識、考える力を得ることが必要です。皆様も放送大学で学んだ新しい知識、それらをもとにした多

様な考え方を通して、ご自身や日本、世界のこれからについて考えて頂けたらと思います。」と挨拶がありました。



次に同窓会を代表して竹下会長より卒業された皆様へ、最近松江市史で桑原文庫の中に、学ぶことの重要性を説いた、江戸時代松江藩江戸藩邸にて不昧公の教育を担当した荻生徂徠の弟子で、儒学者宇佐美恵助が松江藩の家老たちに意見書「極秘書」で送り、「耳より入ると目より入る学問では飲み込みに大いに違い候。耳より入る学問は聴くときばかりに手はのちには忘れ候。来て知るのを知る事狭く、知ることが狭ければ志智を用いることになり候。目より入る学問は朝夕見て知り候。ゆえに知ること多く候。」と書いていて、自らの目で学ぶことを説いており、放送大学の学びと相通ずるものです。

このように皆さまには、ぜひ自らの目で見、考えをもって時流に流されず、学びを継続し、次の目標へ向かっていただきたいと思います。最後に「卒業生の皆様全員に同窓会に入会していただきたい」とお願いしお祝いの挨拶がありました。



卒業生を代表して人間と文化コース卒業の山口さんより「40数年前大学受験に合格したが母親が手続きを失念して入学ができなかった。10数年前に米国のスタンフォード大学のフーバー研究所に歴史の講義を受けた折に、大学のキャンパスが楽しく議論する様子に遭遇し、若いころの向学心が燻っていることから、母の気

持ちに報いるため大学の学位を目指すことを決意した折に、インターネットで放送大学が目に入り、会社経営と両立できるので入学した。40数年を要したが本日母に学位記を見せ、母の喜ぶ顔を見ることができ、孝行ができました。これからは、自分自身のために様々なことをこの放送大学で学び続けて行けたらと考えています。研究者に完成が無いように学ぶ者にとっても終わりは無いことから、自分の向学心、尽きることのない興味に浸りながら楽しい人生を送りたい」と感慨深い気持ちを表された代表挨拶でした。

卒業生の皆さんに学習センターから花束が渡され、全員の拍手で会場より卒業生を送り出しました。(記：竹下)

2021年度 第2学期卒業を祝う会を開催



2021年3月27日(日)、スティックビル5階交流ホールにて、2021年度第2学期卒業を祝う会を同窓会主催で開催しました。今回は卒業生4名に参加していただきました。

今年度もコロナ禍のため、食事会はなく従来とは違う形になりましたが、それでも和やかにそれぞれの思いを話していただきました。



冒頭、竹下会長より自身の経験を交え、消費者問題や社会貢献活動などの取り組みを紹介しながらお祝いの挨拶がありました。



卒業者の皆様から、人間と文化コースを卒業された方は「知りたいという気持ちが強いのでこれで終わりではないかなと思う」、「気楽に長く取り組んで行きたい」。情報コースを卒業された方は、「コロナの影響で試験の思い出がない」、「自分の職に近いコースなので前回のコースより楽だったが、内容によっては思った以上に世界が違ふと感じた」。社会と産業コースを卒業された方は「放送大学とは20年来の関わりがあり、放送大学の勉強がやみつきになり学芸員と司書教員資格等を放送大学で取得した。今後、面接授業等でお会いすることもあるのでよろしく」。心理と教育コースを卒業された方は「放送大学は20年になる、生活と福祉から入ったが、終わってから少し物足らなかつたので、続けた。今回のコースは仕事に役に立つところがあった。ただ、都合にて今回で一区切りとしたいと思っている」などの感想を頂きました。

続いて、客員教授の尾崎先生からは自己紹介と専門分野は生理学で、またアンガーマネジメントも取り組んでいたのも相談があればぜひお越しく下さいなどの挨拶を頂きました。

(石川直樹 記)

2021年度第2学期に学位記を授与されました14名の皆さんに、会報“たたら”にご投稿をお願いしましたところ3名の方からご協力をいただきました。厚くお礼を申し上げます

学位記授与者の声

(原稿到着順)

私たちには放送大学は知識の泉

人間と文化コース 山口晃央



この度放送大学を卒業させていただき、また島根同窓会にも加入させていただき、関係者の皆様方に、深く感謝申し上げます。

さて、私の放送大学での学びは仕事との両立を模索しながらのものでした。また、一貫して放送大学の授業を受け試験を受け続ける自分自身のモチベーションをいかに持続させるかという、自分自身のマインドとの根比べのような毎日だったような気がします。

先日NHKで離島に移住する若者のドキュメントを観ながら、「自分も若い時に体が丈夫であれば、あのようなことをしたかもしれないなあ」と思った瞬間に、ハッと思ったのですが、過去から何かやろうとしてやらなかつた時には、やはりいつも何かしらのできない理由を捻り出していた事に思い至ったのです。これが自分の癖なのかと思った時、とても損をしている気がしたものです。

無理矢理にでもできない理由を考え出して、自分自身を納得、あるいは騙していたのは、人生もったいない事ですよ。それより如何にしたら出来るのかを考えた方が楽しいし、いいに決まっている。こんなことは何十年も前から言われていたし自分でもそう思っていました、実際はそうではなかつた自分に気がついて、今更ながら「良かったあ〜」と思っています。

現在のウクライナとロシアの現状を鑑みても、人生100年(私は180年と思っていますが)時代に至るとされる今でさえ、人類は何事も尽くしきれてはいません。私もわからないことだらけです。

幸いにして私たちには放送大学という知識の

泉を与えられているのですから、尽くしきれない興味や疑問の解決に向かい合うために今後もさまざまな機会を利用して学び続け、自分自身のココロを喜びで満たしたいと思っています。学位はオマケのようなものですが、目標達成の張り合いにはなるでしょうか。今後も先を目指して学んでいこうと考えています。

そして学んだ良知を我が物として、世のため人の為に役立てることが私に至高の幸福感を与えてくれることでしょうし、大袈裟に言えばこれこそ“私の生きている意味”だと感じています。島根同窓会の皆様と共に、楽しみながら、終わりのない自己啓発・人格形成を切磋琢磨できることを願っております。

コロナ禍の影響が非常に強かった2コース目の生活

情報コース 藤嶋教彰



今回卒業した情報コースは教養学部の2コース目で、2020年4月から2022年3月までの2年間在籍となりました。全期間がコロナ禍にあたります。1コース目とは全く異なる学習環境・試験方法であり困惑することが多かったですが、最短期間での卒業となりました。

2コース目は生活面で非常に大変なことがあり、中々勉強時間が取れない日々が続きました。一番の問題は教員の仕事として課せられた新型コロナウイルス対策業務が非常に多いことで、授業・公務・部活動等で多大な労力が発生したことです。

学校は集団感染が非常に怖く、実際に何度もクラスターが発生している施設のため、厳戒態勢で対策がとられています。初年度は4月から半年続いた遠隔授業実施に伴う教材・課題準備に多大な労力が必要でした。秋からは対面授業が再開されたものの、スケジュールの大幅な変更に伴う追加作業の増大や、遠隔授業で深刻化

した学力格差を埋めるための取り組みなどに忙殺される日々が続きました。2年目はコロナ禍前の日程スケジュールに戻ったものが多かったのですが、行事の中止と代替行事の立案・実施というものが何度もあり、通常行事が実施できた場合でも大幅な内容変更が生じたことで新しい作業が増えるなどがありました。部活動は各選手健康観察表をとりまとめて提出することや参加の同意書をとるなどの感染対策と保護者責任の確認を取る業務が増えました。これらにより、本職の従事だけで手一杯となるほど体力・精神力が削られ、勉強のための余力作りが非常に難しかったです。その他、愛する超わがまま息子（約0.5～1.5歳の期間）との生活や学友会の仕事など様々あり、さらに身体的・精神的な面を圧迫しました。

情報分野の知識は元々持っていたため、未開拓分野の科目を取ったものの、学習自体では大きな苦労もなく履修ができました。しかし非常に大変な日々を過ごすことになり、今後忘れることが決してできないと思います。

卒業を迎えて—放送大学と私—

松江市 石倉八千代



まず初めに、放送大学との出会いまでをお話します。

私は家庭の事情で、高校進学を諦め准看護学校に進み、医院に住み込みで働きながら2年で卒業しました。

准看護師として働きながら家庭にも入り、当時8人家族でしたが、子供たちは独立し、義父母と最愛の夫とも死別。たったひとりとなり、少し鬱気味の私でしたが、ある時TVのニュースで80歳の男性が通信高校を卒業されたことを知り、もしかしたら49歳の私でも、今から勉強できるのではと希望が湧き、さっそく入学しました。

米子通信高校は、毎週日曜日に面接授業があ

り、レポートを提出しないと試験が受けられません。そこで職場にお願いして、3年間毎週日曜日を休日にしていただき、頑張っで51歳の春、全日制の卒業式に出席。通信制代表で卒業証書を手にしました。

この勢いで通信制の大学にも行きたいと夢を持っていたところ、職場で放送大学で学んでいる方の話を聞き、最初は科目生で入学しました。しかし、卒業を目的としたコースに切り替えて、“生活と福祉コース”124単位と途方もない単位取得に挑みました。その中には看護学30単位もあり、職場で生かせるのではと勇気が湧きました。

でも、夜勤がある仕事、無理をしないように、コツコツと自分のペースで10年を目標にしました。そして卒業を目前にして、本部から「総合科目が後1単位不足で卒業できません」とのこと、がっかりしましたが気持ちを切り替えて頑張りました。



11年目にしてやっと卒業できたことは、喜びもひとしおでした。学位記授与式には着物を着て出席し、職場にも報告しました。その後3コースを学び、また私にとって放送大学とは、本当に楽しみの場所でした。

そしてもう一つの楽しみは、放送大学での学生研修旅行でした。できる限り参加させて貰い、一人では絶対行くことができない場所へ案内してもらいました。最初は鳥取の“砂の美術館”でしたが本当に感激しました。すばらしい一言です。岡山高梁市“吹屋ふるさと村”etc、まだまだたくさんあります。平成29年には三江線の電車に乗ることができて、最初で最後になりました。また松江市内の古い町並み散策など、いろいろとあり書ききれません。

今春卒業を迎えて、私も75歳というよい年となり、それでもまだ仕事は続けていますが、ここでひとまず区切りとさせていただきます。

最後になりましたが、皆様のご健康とご活躍を、そして放送大学のますますの発展を心よりお祈りいたします。

諸先生方、先輩の方には本当にお世話になりました。ありがとうございました。

地区会員の近況報告 (東部地域 5)

「卒業後の私」

安来市 永見 英



2020年3月、放送大学大学院文化科学研究科(修士課程)全人文プログラムを修了した。

この年の3月は、ちょうどコロナ禍の炎が向うに見え始めた頃、学位記授与式・修了祝賀パーティーの案内はあったが、すぐに中止の通知が来た。当然のことではあると思うが、私の本心はドラマを途中でブツリと消されたような、意識がそこに留まっているような感じがしている。

以前にも記したように、院を修了したのは良かったが、調べていた赤江行夫氏の未読の原稿が日本近代文学館に所在する。私の赤江研究は道半ばである。「調査は続けます」と赤江行夫資料の所有者様へ宣言はしたものの、コロナ禍で調査へ出かけることも出来ず、3年くらいの休憩をお伝えした。

そして現在の私である。前職の2006年の一年位図書館長だったことがある。その時、俳人山本村家(1883年—1944年)資料について、調査が必要と思ったことがあった。20年2月に山本家の現在のご当主とバスの中で偶然会った。調査は未だ進んでいなかった。一念発起し21年1月末から、村家日録(日記)を借用し、毎日読んで

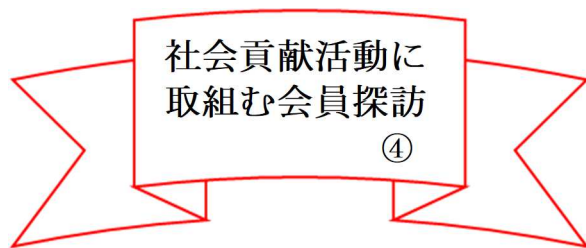
いる。日録は大正6年から昭和18年(但し、大正八年日録、昭和二・十一・十五年日録4冊欠)まで保管されている。現在、昭和8年まで読み進んでいる。ここには天候、小学校教育、俳句、大正・昭和の小作争議、農事、洪水などが記されていた。俳句に関する部分は書き起こしている。こんな毎日を過ごしている。そして、今後2年間はこの生活を続けたい。

臺所の笑ひやみけり雪静か 山本村家

村家は、明治31年、旧制松江中学時代に俳句を知り、同年、上記の句で正岡子規選の地賞を受けた。

これよりは山陰道の月暗し 高濱虚子

1944年10月16日に亡くなった村家への虚子の追悼句で、電報で自宅(現安来市利弘町)へ送られて来たと言う。



消費者保護に取り組む活動！

出雲市 竹下 隆さん



今回は第4回目となる「社会貢献活動に取り組む会員を尋ねて」は、消費者問題を通じて社会貢献活動を続けておられる、「放送大学島根同窓会顧問」の竹下隆さんを、島根学習センターにて取材しました。

竹下さんは島根県の消費者センターに勤務され、複雑化する社会に消費者が戸惑い困惑して、被害を受けている現状を知られたのをキッカケとして、全ての消費者が消費者としての権利を自覚し、その資質の向上と明るい消費者生活の確立を図るということの、その社会的重要性を強く認識され、同時に社会貢献活動として「出雲

市消費者問題研究協議会」、「ボランティアグループACAセミナー自主学習会」の会長を務めておられる。

法律系科目を学びたかったの

—本日はお忙しいところ有難うございます。まず放送大学はどこでお知りになりましたか

竹下 島根学習センターが出来る以前から、大学ができることを情報として知っていました。

—最初のご入学というのは何時でしたか。入学したいと思われた動機は何でしたか

竹下 2008年4月全科生での入学です。以前から大学へ行きたいという思いはありました。少し余裕がでた時に丁度放送大学の入学説明会があり、参加をしました。

—入学時から卒業を目指されたのですね。最初に入られたコースは

竹下—現在の「社会と産業」コースです。

—このコースを選ばれた理由は何ですか

竹下 法律系の勉強がしたかったからです。授業科目のなかにも「〇〇法」とか「社会と〇〇」と法律に関係する科目があつて、それでこのコースを選びました。

—目標を定めて努力されておられますが、それは「大学を目指して卒業したい」という、思いがベースとしてあつたのですね

竹下—そうですね。日頃から大学卒業が必要だと感じたからです。

学芸員資格取得の実習は岐阜女子大で

—さらに学芸員の資格を取得しようと思われたのは



竹下 学芸員資格取得必要単位16単位(学科)は「社会と産業」コース在籍中でした。そして科目群履

修認証制度(エキスパート)の「芸術系博物館プラン」(芸術系博物館活動支援)も同時に取得しました。放送大学には学芸員資格を得る「博物館実習」の単位が無いので、学芸員資格は取れないの



で放送大学から、実習単位認定は岐阜女子大でとなり入学しました。

—実習の単位数は何単位でしたか

竹下 4単位ですが土日で1単位なので、全部で10日間程岐阜へ行きました。

—放送大学との「単位互換」制度ですか

竹下 放送大学との「単位提携」でした。放送大学学生用のカリキュラムが組んであり、もともと岐阜女子大には「博物館学芸員コース」があり、一般の人も集めていたけど、放送大学専用のカリキュラムというのが組んであり、私が入学した時は放送大の学生だけで10数名いました。

—放送大学では実習がありませんからネ。10日間の実習期間ということでしたら、働きながらですのでどれくらい要しましたか

竹下 単位取得には半年間かかり、2015年3月に取得しました。

—土、日曜を利用しての岐阜通いは、1回ごとに前泊含め2泊ということですか

竹下—前泊の時もあれば、仕事の都合もあって広島から夜行バスで名古屋まで行って、それから実習先の岐阜女子大まで行くということも何回かありました。

—授業料よりも、そちらの方が高額ですね。学芸員資格の実習単位取得は、改善されていますが、島根大学では用意されていない。こうして学芸員資格を得られたのですが、現在その資格は活かされていますか

竹下 社会貢献活動も含め、なにもかも完全にリタイアしたら博物館にでも、ボランティアにでも活かしたいのですが、今はまだ趣味の世界です。

—今のところは宝の持ち腐れですね。さらに竹下さんは放送大学を卒業され、現在は近畿大

学の方で学ばれていますが、近大へ行こうと思われたキッカケとは何ですか

竹下 今は法学部に在籍していますが、法律をキチンと勉強したいということ。それに現在活動していることにも、法律が係わってくるので、どうしても専門的な法律を身につけたくてということでした。

—学歴の記載はどうなりますか

竹下 「近畿大学法学部・通信教育学部」です。

—近畿大学での卒業に必要な単位数は

竹下 124単位になりますが、私は放送大学からの編入ですので、64単位です。ただ今はコロナ禍でスクーリングの単位がなかなか取れません。何度申し込んでも、また県をまたいでの受講もできないこともありました。一応8年間は在籍できますけど。

—現在は何年目になりますか

竹下 3年目です。コロナの規制も緩和されているので面接授業の単位も取れます。

—素晴らしいですね。現在消費者センターへ勤務されていますが、現在何年目になりますか

竹下 今は8年目になります。週に4日、月16日です。嘱託職員から制度が変わって現在は公務員という形で、それが2年目となります。



消費者問題に取り組む活動

—現在活動をされておられる2つの団体の代表をされていますが、その団体に係わろうとされた動機とはどういうことですか。2つの団体のどちらが最初ですか

竹下 ACAセミナー自主学習会が最初です。消費者センターに勤務する以前から、消費生活相談員の資格を取るための仲間が「勉強をしようじゃないか」という趣旨で集まり、消費者活動にも関わろうということで、平成26(2018)年からです。



—消費者センターの中で相談員となるには、資格が必要なのですね

竹下 そうです。消費生活相談員という資格が要ります。

—2016年11月出雲市内にて、ACAセミナー自主学習会主催、同窓会後援で、元消費者庁長官の阿南久さんを迎えて講演会がありましたね

竹下 テーマとして「つながろう！消費者被害ゼロをめざして！」でした。その時が同窓会さんに後援団体として初めてのつながりでした。

—それからもう一つの団体にも関係しておられますね



竹下 「出雲市消費者問題研究協議会」ですね。ACAセミナー自主学習会の活動をしているなかで、出雲市内で活動をしていた協議会が手薄になったので手伝ってくれないか、という相談を受けたからです。出雲支部でしてその後には会長をとるという依頼を受けたからです。

—ACAセミナー自主学習会より以前から、存在していたことですか

竹下 「出雲市消費者問題研究協議会」は古くからの団体です。各市町村にも支部が実在し、もともと県の合同庁舎が管理していて事務局を移したのです。県からの補助金・活動資金の受け皿ということになっています。

—県内には、地域ごとにそういう支部はありますか。

竹下 1か所だけ無い地域があり、後は全県下にあります。活動が盛んな地域は安来・出雲・浜田が一寸停滞気味で、松江にもあるのですが。

—活動に差があるというのは、何でしょうか

竹下 世代交代が上手くできたとか、できなかったからでしょうか。

—2020年11月出雲市で総会がありましたね。県内市町村から担当者の方々の集まっておられました。組織としては存続してはいるが、具体的な活動が低調なのは何ですか

竹下 人材が居ないというか・・・

—出雲市においては活動も人材も、県下でトップクラスの存在ですが、そのような土壌というのは、何処から来ていると思われませんか

竹下—どうでしょうかネー。ハッキリとは分かりません。

—以前に北欧の福祉制度を視察するツアーも組まれていましたが、視察者は行政職員とか看護職の人たちが1週間から10日間位の視察をしていましたね

竹下 それは「女性の翼」です。参加された方たちがほとんど今は両方とも、協議会やACAセミナーに加入して一緒にやっているということです。元同窓会副会長の増原さんもそうです。

—県が消費者活動の委託事業の募集を毎年実施していますが

竹下 「明日への消費者活動支援事業」制度です。1団体上限額が20万円ですが私たちの具体的な取り組みの一つです。

—貴方に紹介をされて2018年10月に同窓会で初めて取組みましたが、申請団体が少なかったので30万でした。中心活動は「消費者問題」なんですね。最近の活動はどんなことに取り組んでおられますか

竹下 私たちもこの他に環境問題にも取り組んでいますが、2021年度はSDGs問題、2020年は成人年齢の引き下げ問題でした。私個人は別な団体からのお誘いを受け、時々顔を出しています。高校のボランティアを勉強する部活などと連携して、海岸のゴミ拾いとか森林の伐採管理とかに、放送大学で学んだことが活かせて





いると思いますね。

—自分の趣味や想いの範疇には、地域貢献活動をしたいの思いはあるかもしれません。竹下さんとしては卒業生に対し、地域活動に目を向けて欲しいという思いはお持ちですか

竹下 ぜひとも地域活動に参加してもらいたいですね。

卒業者の社会貢献活動を取材へ

—竹下さんには同窓会副会長として3期6年間お世話になりましたが、貴方がおられた時に多岐の桜井家の「たたら遺構」と文献を見学しました。その後にマスコミが注目し報道したことで脚光を浴びました。竹下さんは先見の明があったわけですか。ところで同窓会に期待されることなどがあればお聞きしたいです。

竹下 私が授業を受けた時に、NPOを作ったらどうかという時間がありました。その時に千葉の方でしたが、元水道の技術者だったその方が、リタイアされてからボランティアでNPOを作って活動しているという様な事例報告もありました。ですから「放送大学で学んだからだ」ということを知らせることも同窓会の役目ではないかと思っています。同窓会に入っておられない方でも、おひとりおひとりを調べてみれば、卒業をした後にそういう活動をしておられる人がおられるのではないかと。そんな人たちをピックアップしてあげれば、同窓会の活動というものも見直されるんじゃないかと思いますが。

—5月に25回の同窓会連合会の総会がZoomにて開催があり、社会貢献をしている会員についての調査があり、多くの同窓会では実態を掴んでいないとの報告でした。島根のように会則の中に「地域貢献に取り組む」とし、会報で地域貢献活動をされている会員を取材訪問記は、全

国的にもまれで島根同窓会は特異な存在です。ところでボランティアの団体とか、活動をしている人を島根県としては把握していますかね

竹下 県にはそういった情報はあります。ただ現在は個人情報ということがありますので、情報を出しても良いという方にはそうしていますが、全部をオープンに出すことはできないのです。

島根県には「消費者リーダー育成講座」がありまして、その受講者の方達に、今後も情報の入用を希望しますか？といった、そんなアンケートを取ったりしています。その時には県が持っている情報を提供しています。

—今の放送大学には、若い人たちが多く入ってきていて、パソコンに馴染みのない高齢者たちの学ぶ意欲が排除される状況です。さらに他大学からの編入してきた学生たちは、放送大学が母校であるという認識も薄い。自己の学歴を書くなかで「放送大学卒業」と書く人は少ないですね。

竹下 私が近大で知った先生は弁護士さんですが、学歴にははっきりと「放送大学卒業」と書かれていました。

—本日はご多忙の中、取材に応じるためわざわざ出雲よりお越しいただきありがとうございました。今後とも同窓会と信頼関係を深めてください。

竹下 こちらこそよろしくお願ひします。今後とも島根同窓会の益々のご活躍を期待しています。



(左：竹下前副会長 右：竹下会長)

—取材を終えて—

こんな話がある。ある高僧のところに、いかにもインテリ風らしき男が尋ねてきて「自分も悟りたい」と申し出た。和尚はその男を上げらせて「まあゆっくりしなさい」といってお茶をすすめた。

注がれたお茶を飲み男が湯呑を置くと、未だたくさん残っている湯呑に和尚は構わずにお茶を継ぎ足すので、お茶があふれ出した。「和尚、茶碗には一杯まだお茶があるのに、それ以上入るとこぼれます」と言う。「サアソコジャー。アンタは悟りたいと申し出たが、アンタの頭にも軀からだにも、要らんものが一杯にある。先ず全部それを捨ててから来なさい」と言ったそうだ。

放送大学で学びモノを識り、沢山の知識を得ても、ソレを後生大事に自分の裡うちにだけしまっておくのでは唯、ひたすらに金を貯めるだけ。預金通帳の額が膨らんだと同じことである。

貯めたお金を下ろして、有効に使うことを知らず一生涯を終えること、或いは吸い込んだ空気を吐かずしてひたすらに貯め込んで、最後は苦しくなるのと同じである。況いわんや悟りに至ることなど無いのは、当然のことである。

すなわち、竹下同窓会長が力をいれていて、そして私たち「放送大学島根同窓会」が社会貢献活動に力を入れる理由というのも、実に此処にあるからである。

9号線において事故があり、一寸遅れてのインタビューとなったが、姿勢を崩されることもなく、終始穏やかに或いは時に、訥々として言葉を選びながら実直に語られる竹下隆さんであり、取材をさせていただきながら私は、そんな穏やかさのなかに秘められた竹下隆さんの芯の強さ、意志の強さというものを感じとっていた。

『論語』の里仁篇りじんに次のようなことばがある。「子曰く、君子は言ことに訥とつにして、行いに敏ならんことを欲す」

お忙しい中わざわざ学習センターまで出向いていただき、快く取材に応じて頂きました竹下隆さんに、改めて此処にお礼を申し上げます。

(記：知野見)

次回訪問の会員を自薦・他薦募集しています。
ぜひとも広報部までご一報ください。

同窓会連合会第25回通常総会 (書面総会) 報告

会長 竹下靖彦

2022年度(第25回)通常総会は、5月21日(土)13:00~13:45分まで、昨年同様コロナ禍のため事前資料配布に基づきZoomによる書面による総会として開催され、石川副会長とともに各自宅にて出席をしました。

第1部 通常総会

書面による総会のため、各議題の第1号議案～第6号議案の集計結果は、51同窓会中賛成47、委任状2、反対0、未回答2、であった。

まず連合会北野会長は、2年間の在任中はコロナ禍での対応となり、各同窓会のご協力活動に感謝する。この1年は地区交流会を工夫して開催できた。次年度は各同窓会に対しZoom用アカウントを配布できるので、2名以上のホスト経験者を確保してほしい。と冒頭の挨拶があった。

新会長選出と提出議題の可決

総会議長に遠山義久理事(東京多摩同窓会)を選出し、議題ごとに決議を確認して進行した。ただ第6号議案の役員選任について愛知から意見として、役員構成が関東に集中している。バランスを考慮するべきであり、ブロック選出となっている理事の役割が不明である。役員構成はコンパクトにしてほしいと意見が出された。

引き続き新会長に就任した須藤國夫氏(栃木同窓会)が、今後の連合会活動の重点について決意を表明されて終了した。

第2部 検討会(14:00~15:30)

学長講演「未来に向かうVision2027」

冒頭に岩永雅也学長による「放送大学の過去、現代、未来」と題して講演があり、来年は開学40周年を迎えるため、30年史に引き続き40年史の編纂に取り組んでいる。

大学設置の沿革と新しい大学への取り組みについて、近況の入学者数推移、学生の属性、入学動機、面接授業の同時双方向 Web 授業のデータ分析から、未来に向かい教学 Vision2027 について基本理念～ひとりひとりに最適な学びを放送大学から～。社会的使命は生涯学習、リカレント教育、学位取得へ広く開放、教育イノベーションの進歩に寄与するに取り組むとの Vision が打ち出された。今後の進む大学の在り方に興味を抱いた内容であった。ただし高齢者は疎外されるため大学の果たす役割が創立の使命と相違しつつあると受け取った。また2022年度の学位記授与式はNHKホールで開催予定である。

第3部 全国同窓会代表による情報交換会

(15:40～17:00)

情報交換会は事前提出の報告シートをもとに、特に同窓会及び学生の地域でのユニークな活動状況・概要を中心に、南の鹿児島から順次北へと報告となった。

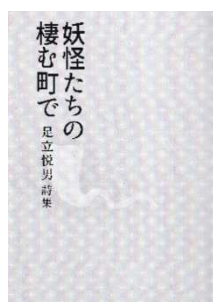
最後に須藤新会長より、会則の変更、代表者の変更について報告、Zoom、ハイブリットについては後日通知する。との嬉しい報告があり終了した。



私の書架散策

No. 1 2

大田市 知野見孝信



書籍名：『妖怪たちの棲む町で』

著者名：足立悦男

発行所：詩誌「菱の会」

島根学習センター元所長、
足立悦男先生が21年11月

に上梓された小説『大空放哉』に続いて、21年1月『妖怪たちの棲む町で』の詩集を出版された。

この『妖怪たちの棲む町で』というタイトルの詩集には、24篇の詩が収められていてその中には、私たちがお馴染みの沢山の妖怪たちが顔を出す。

ところで一般的に「詩」というものには、小説やエッセイなどと違ってやたらと難解な言語やら比喩、それも通常、日常では使用しないような比喩が多く、殊に現代詩などというものは、何を言っているのかサッパリ分からん！というようなモノが多い。

だからそんな難解な詩(現代詩)を著す人達を揶揄して「詩の読者は詩人しか居ない」などといわれてもいるが、でも『妖怪たちの棲む町で』に在る詩はどれも、登場する妖怪たちそのものが、穏やかで、親しみやすく、どこか愛らしい「このひとかわいい」と思わせるものばかりである。

生まれ育った町の駅の、八百メートルに亘る水木ロードに並ぶ妖怪達に親しく声をかけ、触ったり、後ろに回ったり、スケッチをしてみたりと・・・この町で、身近な存在として暮らしてきた妖怪達を散文詩として書かれたソレは、平易で味わいがあり、この町に暮らす一コマが愛情をもって眺められていて、そして作者の優しく暖かな人柄がソコソコに存在する詩である。

つまり作者はそんな妖怪達を通して、生まれ育ったこの町を歎び謳っているのである。

こんな妖怪達が居た。「一見怖そうな風貌でいて心根はやさしい 祖母のような広やかな愛で鬼太郎ファミリーを守り抜いた・・・辺りにふっとあたたかい空気がながれた。」(「砂かけ婆」) また「水木先生の仕事机」篇には、こんなことが書かれてある。

「境港市観光協会主催の第1回妖怪人気投票(2007年)の結果は、1位一反木綿、2位目玉おやじ、3位水木しげる、4位鬼太郎、5位ぬり壁・・・」

何と！妖怪、産みの親の本人、水木しげるが「妖怪」そのものとなってしまったのだ。更には

こんな、ペーソスと懐かしさ溢れる詩もあった。

「一反木綿」

「境水道の夜空に大輪の花がひらく
港まつりのフィナーレ花火大会の会場
である 花火が消えると夜空をおおう
闇 深い闇に包まれた観衆は空を仰い
で息をのんだ 闇を透かしてひらひら
飛んでいる一枚の布 一反木綿だ 見
たという目撃情報の多い妖怪である
・・・もめんという響きは幼い記憶に
遡る 浜の目(弓浜半島)は木綿の里
である 砂地を好む綿花栽培が盛んだ
った 母は綿花を育てて綿を繰り糸を
紡いで布を織った 経糸の間をくぐら
せる杼の音が耳に快かった だからだ
ろうか一反木綿という名前からして親
しみがある・・・水木ロードの一反木綿
に会いに行く ブロンズ像は空を飛ん
でいる姿で台座の上に固定されている
メジャーで計ってみると 40センチ台
座におちついたから もう飛ぶことも
戦うこともない しゃがみ込んでブロ
ンズ像をなでてくれる子どもたちに鬼
太郎救出劇を少しだけ誇張してきかせ
ながら余生を過ごすのもいい、一反
の布を織ってくれた浜の母たちの 杼
の音の遠い記憶に耳を澄ませて」

まだまだ紹介したいが、あとは皆さん是非手
に取って読んで、味わってみて欲しい。

～同窓会からのお知らせ



新会員のご紹介

(2021年7月～2022年3月)

2021年2学期卒業

◎人間と文化 山口 晃央さん (松江市)

◆同窓会の活動日誌◆

(2022年1月～2022年6月)

【1月度】

- 12日(水) “たたら” 発送準備
- 13日(木) “たたら” 発送(郵便局)
- 30日(日) 初心者のパソコン活用教室

【2月度】

- 5日(土) Zoom 講習会
- 12日(土) 初心者のパソコン活用教室
- 20日(日) 第5回役員会 (Zoom)
- 25日(金) 学位記授与式打ち合わせ
- 26日(土) 初心者のパソコン活用教室

【3月度】

- 18日(金) 第10回通常総会案内状発送
- 27日(日) 第2学期学位記授与式開催
- 27日(日) 第2学期卒業を祝う会開催
- 27日(日) 第6回役員会 (Zoom)

【4月度】

- 5日(火) 21年度決算書作成作業
- 9日(土) 21年度会計監査
- 10日(日) 第7回役員会開催
- 12日(火) 第10回通常総会議案書印刷
- 13日(水) 通常総会関係資料発送
- 17日(日) 第10回通常総会開催

【5月度】

- 9日(月) 第30回広報部会 (Zoom)
- 20日(金) 連合会第25回総会 Zoom 準備
- 21日(土) 連合会第25回総会 (Zoom)

【6月度】

- 4日(土) STIK 支援協議会総会
- 10日(金) 1学期単位認定試験体験会
- 11日(土) 広報部会員地域活動取材

【重要】2022年度第2学期単位認定試験はWeb受験方式です!

放送大学では、新型コロナウイルスの感染拡大を契機に単位認定試験の実施方法の改善に取り組んでおり、2022年度第2学期単位認定試験についても、2022年度第1学期に引き続き、**Web 受験方式(一部科目※については郵送受験方式)にて実施**します。

1. 2022年度第2学期 実施方法概要

実施方法は「**Web 受験方式**」を基本とし、一部の科目※のみ「**郵送受験方式**」により実施します。各科目の実施方法・出題形式(択一式・記述式・併用式)は、『**2022年度第2学期授業科目案内**』に記載しますので、実施方法・出題形式も考慮の上、科目登録してください。

Web 受験方式

- ・自宅等から、インターネットを通じて**Web 単位認定試験システム**にアクセスし、問題閲覧・解答提出を行います。
- ・**1科目50分の制限時間**があります。(一時停止不可、1回のみ受験可能)
- ・科目ごとに「**択一式**」「**記述式**」「(択一式と記述式の)**併用式**」のいずれかの形式で出題されます。

択一式問題

選択肢をクリックすることで解答します。



記述式問題

解答記入欄に文字入力することで解答します。



郵送受験方式 ※「正多面体と素数(21)」、「日本美術史の近代とその外部(18)」、「量子化学(19)」のみ

- ・1月上旬ごろ大学本部から送られる**問題用紙・解答用紙・提出用封筒**を用いて、**郵送**で解答を提出します。
- ・**試験時間の制限は行いません**。・出題形式は「**記述式**」または「**併用式**」です。



その他実施についての詳細は、2022年11月中旬頃、郵送物及びウェブサイト等でお知らせ予定です。

2. 2022年度第2学期 試験日程

Web 受験方式(試験期間)：2023年1月17日(火)9:00～1月25日(水)17:00

郵送受験方式(提出期間)：2023年1月17日(火)～1月25日(水)《必着》

3. 2022年度第2学期 科目登録にあたっての注意点

- ◆2022年度第2学期単位認定試験期間中、いつでも自宅等から受験できますが、登録システムの設計上、「**授業科目案内**」に記載の試験日・時限が同一の科目を重複して登録することはできません。
- ◆2022年度第2学期単位認定試験期間前までに、**Web 単位認定試験体験版**を必ず操作しておいてください。
- ◆**インターネット環境がない、またはパソコン操作が困難等の事情により Web 受験が困難な方は、島根学習センターで受験が可能です。(申請が必要)**

同窓会 当面の行事案内

2022年度第1学期学位記授与式開催のご案内

日時 2022年9月25日(日)11:00~12:00 (共催:島根学習センター)
会場 島根学習センター 3階 「第1講義室」(予定)
対象者 2022年度第1学期の卒業要件を満たした学生・修士修了者の皆さん
※卒業を祝福するため、会員のご参加をお願いします。

2022年度第1学期卒業を祝う会開催のご案内

日時 2022年9月25日(日)12:00~13:00 (共催:島根学習センター)
会場 島根学習センター 4階 「第2講義室」(予定)
対象者 2021年度第2学期の卒業要件を満たした学生・修士修了者の皆さん
※卒業を祝福するため、会員のご参加をお願いします。

2022年度第2学期入学者つどい開催のご案内

日時 2022年9月25日(日)13:30~14:10 (共催:島根学習センター)
会場 島根学習センター 3階 「第1講義室」(予定)
対象者 2022年度第2学期の入学者の皆さん
※入学を祝福するため、会員のご参加をお願いします。

～編集後記～

もう時期が過ぎてしまいましたが、ちょうど桜の時期に、一度も行けていなかった地元の山を歩く桜ウォークに参加してきました。きれいな山桜を見ながら楽しくウォーキングをするイベントです。ここ数年、せっかく申し込んだのに、腰痛やらコロナで行けなかったものです。桜の木にはそれぞれ「相生桜」、「将軍桜」、「大平桜」と名前がつけられ、樹齢数百年の立派な桜でした。遠くは隠岐の島も見ることができ、あらためて住んでいる地域の素晴らしさを見直すよい機会となりました。昨今、コロナ禍で伝統行事が中止になったり、リモートになったりと、いままでは当然と思っていたことが見直されるなか、やはりいいものはいいい、残すべきと思う一方、身近なところにはまだ知らない素晴らしいものがあるのに気づけていないのではと感じました。今、大変な時期ですが、当たり前にあつたものがないことを嘆くより、身近にあるものを再発見する機会と捉えたら少しでも明るくなれるのではと思います。(石川)